

たけやこども食堂【竹屋地区】

～地域のこどもは地域で守り育てる 世話好きおばちゃん達のカレーライス～

【参加団体】地区民生委員児童委員協議会、母親クラブ、少年補導補助員連絡協議会、公民館、青少年連絡協議会等

地区の状況

家庭の都合で一人で食事をとるこどものことが気になりだした民生委員が、「みんなで楽しく食事ができる場所」を地域に作りたいと企画。地区内の町内会が管理する集会所を候補場所にしたいと町内会長に相談。集会所の部屋、鍋や炊飯器などの備品も使用可能との快諾を得られ、令和4年2月に「たけやこども食堂」としてスタート。

取組内容

- ・こどもや大人「誰もが利用できる場所」として、毎月第一土曜日の12:00～13:00に東平塚集会所にて開催。毎回平均70～80人が訪れる。
- ・スタッフは現在12名。強制はせず「参加できる時だけでいい」というルールにしている。公民館だよりを見て、区外からスタッフに加わってくれたメンバーも。スタッフがメニューに悩んだり、負担になることがないようにと、メニューは基本的にカレーのみ。
- ・「地域のこどもは地域のみんで見守り育てるもの」という考えのもと、民生委員だけでなく、地区社会福祉協議会、母親クラブ、青少協、と地域の色々な団体に声をかけ協力をいただいている。
- ・運営費用は、各種団体の補助金等のほか、NPO法人こども食堂支援センターや協力してくれる企業の寄付も受けている。町内会の協力で集会所も利用できており、現在のところ予算面で困りも生じることなく運営できている。

～ある日の「たけやこども食堂」の様子～

朝からスタッフの皆さんが野菜を切ったりご飯を炊いたり、てきぱきと準備が進みます。



▲この日のメニューはカレーとツナ・コーン入りサラダです

開始10分前になると、公園を訪れる人が増え、「カレーまだー？」と覗く子どもの姿も。12時のオープンを迎えると、親子連れ、小学生、中学生、お年寄りなどが次々と絶え間なく訪れ、カレーを食べ会話を楽しむ様子がありました。スタッフからは、訪れる子どもたちへ「大きくなったね。」お母さん達には「元気？今日妹はどうしたの？」など、地域ならではのあたたかい声かけが印象的。顔を合わせ、お互いに声をかけ合い、笑顔が生まれる、そんな温かい雰囲気溢れていました。

～参加者の方にお話を伺いました～

こどもが学校から持ち帰った公民館だよりを見て参加したのがきっかけで、もう10回以上利用しています。カレーを食べたら公園で遊ぶのがお決まりでいつも楽しみ。家だと食事を残すこともあるけど、ここだと作ってくれる人の顔が見えるから、こどもが残さず食べてくれて、食育の場になっています。住んでいる地域にこんな場所があるのはとてもありがたいです。



スタッフより

引っ越しても、遠くから自転車で通ってくれるこどももいて、成長していく姿を見られるのはとても嬉しい。活動を続けていると、「カレーのおばちゃん」と、こどもが自分の顔を覚えてくれることもやりがいです。これからも、スタッフが楽しく、負担なくできることを大切にしながら活動を続けていきたいです。

活動による効果

地域住民同士の交流が希薄化するなか、こどもの健全な育成だけでなく、子育て世代の不安の解消、高齢者の孤立化防止など、多世代が交流できる地域のこどもや大人の居場所になっている。